

なくそう！不法投棄

草むらや竹やぶの中などに大型のごみが捨ててあるのを目にした人も多いのではないだろうか。これは不法投棄といって法律（ ）で禁止された犯罪行為です。不法投棄が行われた場所では、景観が損なわれるだけでなく、悪臭や周囲の土壌、水などの環境にさまざまな影響を及ぼすことが考えられるほか、廃棄物の撤去に多大な労力と費用がかかります。

市では、不法投棄の早期発見による環境美化を目的に、各学区選任の市内14人の不法投棄監視員による定期的な巡回監視と、この活動と連携し



不法投棄されたごみ



たクリーンパトロール事業を行っています。

その結果、平成21年度には、約230件の不法投棄が発見されました。内訳を見てみると、空き缶やペットボトル、弁当がらなどのポイ捨てごみから、家具やテレビ、自転車などの大型ごみまで多種多様です。これらの不法投棄は、川沿いや山すそなど人目につきにくいところに多く発生しています。こうしたごみをそのまま放置すると次の不法投棄を生み出すことに繋がることから、早期発見と撤去処分は重要な取り組みと言えます。

不法投棄をなくすためには、私たち一人ひとりが監視の目を持つことが必要です。すでに市民ボランティアによる清掃活動も多く行われています。また6月6日には、多くの市民の方とともに「ごみゼロ大作戦」を実施します。みんなの力を合わせて、野市をごみのない住みよいまちにしましょう！

廃棄物の処理及び清掃に関する法律：不法投棄に関する罰則では、5年以下の懲役もしくは1千万円以下の罰金が科せられます。

◎こんなごみが不法投棄されています！

平成21年度クリーンパトロール事業の実績

品名	数量	単位
可燃物	7,140	kg
不燃物	8,375	kg
埋立ごみ	1,530	kg
タイヤ	229	本
バッテリー	30	個
消火器	1	本

品名	数量	単位
パソコン	7	台
テレビ	69	台
冷蔵庫	15	台
エアコン	-	台
洗濯機	7	台
自転車	35	台



昨年のごみゼロ大作戦の様子

毎月第4土曜は
廃食用油回収の日

5月22日

午前10時～午後1時

回収会場：市役所別館（旧コミセンやす）横電話ボックス付近
回収物：廃食用油、牛乳パック、アルミ缶

資源ごみや廃食用油等の受け取り等にご協力いただける方募集！

問環境課 587 - 6003、エコロジーマーケットやすの会・増村 586 - 1441

「ごみゼロ大作戦」参加者募集！

～みんなのびわ湖を私たちの手できれいにしましょう～

6月6日 午前9時～11時 雨天中止

集合場所... 菖蒲自治会館北側公園（駐車場は、菖蒲自治会館南側グラウンド）

清掃場所... あやめ浜、マイアミ浜周辺および湖岸道路

活動内容... ポイ捨てごみ、漂着ごみの回収および雑草の除去

滋賀県ごみの散乱防止に関する条例（通称：クリーン条例）で定められた5月30日の「環境美化の日（ゴミゼロの日）」を基準日として、びわ湖岸、河川、公園、道路など県内各地で清掃活動が実施されます。市においても、企業、各種団体、市民が一体となつてびわ湖岸を中心に清掃活動を実施します。

皆さんの参加をお待ちしています。

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(68)

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

【5月の休館日】

月曜・火曜日、6日

5月3日～5日は祝日開館します。

【お知らせ】

4月から市民の入館が無料になりました。

テーマ展「くらしの今昔」/5月30日まで

昔の写真や民具などからくらしの移り変わりをたどります。

赤米作り教室 参加者募集 / 5月22日 午後2時～4時

弥生の森歴史公園で、古代の貫頭衣を着て「赤米」の田植えをしてみませんか。

参加費...無料 / 申し込み...同博物館



手回計算機

テーマ展「くらしの今昔」では、昔の写真や民具から、農業や家のくらし、まちのあゆみなど、身近なくらしの移り変わりをたどっています。今回は、その展示資料のなかからちょっと珍しいものを紹介します。

手回計算機

手動の手回計算機で、1965(昭和40)年ごろまで使われていたものです。大きさは長さ38・5センチ、奥行き19センチ、高さ14センチ、金属製でがっしりしていてか

くらしの今昔

テーマ展・展示資料より

なり重いものです。「Tigerr」「Calculator」の商標があり、タイガー社製の計算機は、大本寅治郎が発明し「虎印計算機」と命名されました。1923(大正12)年に一号機が作られ、全国に普及しています。けた数は10けたまでであり、足し算、引き算、掛け算、割り算をレバーにより設定し、ハンドルを手で回すと「チン」と鳴って答えが表示されます。

この計算機は、役場で用いられていました。当時はかなり高価なもので何台もあるわけではなく、必要な時に交替で使っていたようです。その後、電卓が登場し始め、少しずつ事務の仕事も変わっていきま

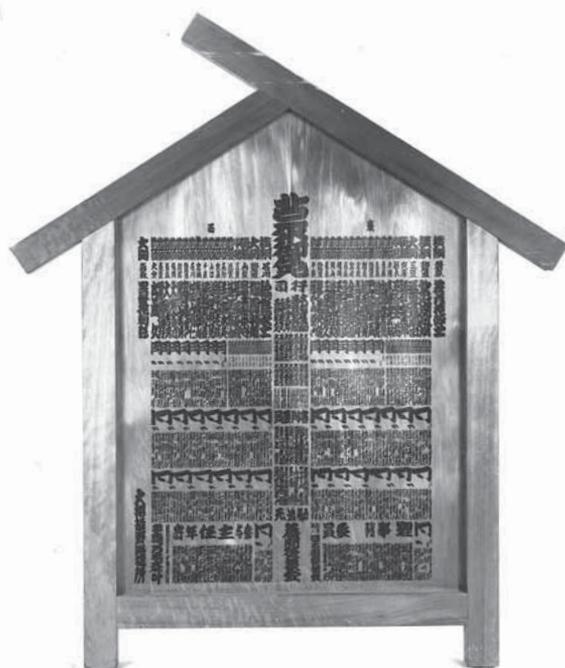
大相撲野洲場所番付

大相撲の巡業は、かつては全国津々浦々、小さなまちにも訪れたものでした。野洲でも、1978(昭和53)年10月12日、野洲駅前の農協横特設会場(現・文化ホール敷地)で「大相撲野洲場所」が開催されました。ちょうど大相撲で、野洲出身の力士「蔵間(くらま)」が大活躍し、人気を集めていたころです。蔵間関は、時津風部屋に所属し、最高位は関脇、技能賞2回、敢闘賞1回を受賞しています。

大相撲野洲場所の板番付は、高さ143センチ、幅121センチもある堂々としたもので、「相撲字」と呼ばれる独特の書体で記されています。番付を見ると、横綱の北の湖、輪島、若乃花や、三重ノ海、貴ノ花、高見山ら人気力士が名を連ね、蔵間は西前頭筆頭に記されています。勸進元「蔵

間後援会」とあるように、地元後援会が主催して開かれ、観客動員数一万余り(当時野洲町人口約2万6000人)、満員御礼の巡業でした。地域の変化は日々めまぐるしく、わたしたちのくらしは大きく変わってきました。特に昭和30年代からの変化は著しく、農業の機械化や家電製品の普及など、生活が大きく変わり始めた時代でした。この機会に、少し昔のくらしの様子や、身近なまちの変化にふれてみてください。

(博物館学芸員 行俊勉)



大相撲野洲場所番付 1978年